

臭化メペンゾラート 7.5mg 錠

溶出試験 本品 1 個をとり，試験液に水 900mL を用い，溶出試験法第 2 法により，毎分 50 回転で試験を行う．溶出試験開始 15 分後，溶出液 20mL 以上をとり，孔径 0.5 μ m 以下のメンブランフィルターでろ過する．初めのろ液 10mL を除き，次のろ液を試料溶液とする．別に臭化メペンゾラート標準品を 105 で 4 時間乾燥し，その約 0.021g を精密に量り，水に溶かし，正確に 200mL とする．この液 4mL を正確に量り，水を加えて正確に 50mL とし，標準溶液とする．試料溶液及び標準溶液 50 μ L ずつを正確にとり，次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行い，それぞれの液の臭化メペンゾラートのピーク面積 A_T 及び A_S を測定する．

本品の 15 分間の溶出率が 85% 以上のときは適合とする．

臭化メペンゾラート ($C_{21}H_{26}BrNO_3$) の表示量に対する溶出率 (%)

$$= W_S \times \frac{A_T}{A_S} \times \frac{1}{C} \times 36$$

W_S : 臭化メペンゾラート標準品の量 (mg)

C : 1 錠中の臭化メペンゾラート ($C_{21}H_{26}BrNO_3$) の表示量 (mg)

試験条件

検出器：紫外吸光光度計 (測定波長：258nm)

カラム：内径 4.6mm，長さ 15cm のステンレス管に 5 μ m の液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする．

カラム温度：25 付近の一定温度

移動相：過塩素酸ナトリウム－水和物 14.0g を量り，水 1000mL を加えて溶かした後，薄めた過塩素酸 (17 / 2000) を加えて pH を 3.0 に調整する．

この液 550mL に液体クロマトグラフ用アセトニトリル 450mL を加える．

流量：臭化メペンゾラートの保持時間が約 5 分になるように調整する．

システム適合性

システムの性能：標準溶液 50 μ L につき，上記の条件で操作するとき，臭化メペンゾラートのピークの理論段数及びシンメトリー係数は，それぞれ 4000 段以上，1.5 以下である．

システムの再現性：標準溶液 50 μ L につき，上記の条件で試験を 6 回繰り返すとき，臭化メペンゾラートのピーク面積の相対標準偏差は 1% 以下である．

臭化メペンゾラート標準品 「臭化メペンゾラート」．ただし，乾燥したものを定量するとき，臭化メペンゾラート ($C_{21}H_{26}BrNO_3$) 99.0% 以上を含むもの．